

# 令和元年度いばらきっ子郷土検定問題 解答と解説

## 取手市 解答と解説

組	番	氏名
---	---	----

番号	解 説	答
1	取手市の鳥に指定されている鳥はフクロウとカワセミです。カワセミは、水のきれいな水辺に分布し、色鮮やかな水鳥として知られています。	3
2	取手市の木に指定されている木は、ゲッケイジュとモクセイです。モクセイは、9月から10月にかけて小花を葉脈にかたまつて咲かせる、香りの良い常緑中木(じょうりよくちゅうぼく)です。	4
3	取手市の花に指定されている花は、フジとツツジです。ツツジは、常緑低木(じょうりよくていぼく)で、4月から5月にかけて、赤、紫、白などの美しい色の花を咲かせます。	1
4	アメリカ合衆国のユーバ市と旧藤代町は姉妹都市協定を結んでいました。旧藤代町は2005年(平成17年)に取手市と合併して取手市となった後も、ユーバ市との姉妹都市交流を引き継いでいます。ユーバ市は平坦な地形で水と多くの緑に囲まれた街で、主な産業は農業となっています。	2
5	取手市と桂林(けいりん)市は1990年(平成2年)に特別友好都市を結び、市民交流を継続的に進めています。桂林(けいりん)市は中国南部の広西チワン族自治区に位置し、カルスト地形でタワーカルストが林立し、絵のような美しい風景に恵まれ、世界的な観光地です。	4
6	取手は、1970年(昭和45年)10月1日に市制施行をし、取手市となりました。	2
7	取手第二高等学校は、1984年(昭和59年)に、全国高等学校野球選手権大会で優勝をしました。	3
8	茨城県は2017年度(平成29年度)のビール製成品が391,378キロリットルで製成品全国第1位の県です。取手市にも大きなビール工場があります。	1
9	取手市にある岡堰(おかぜき)は、1950年(昭和25年)に茨城県の観光審議会が選出した茨城百景に選ばれています。	2
10	正岡子規(まさおか しき)は「水戸紀行」において、取手は東京を出てからは一番繁華な町で、西洋風の家も見受けられると書いています。正岡子規の「ホトギス」や「墨汁一滴」には、取手の俳人仲間との活動の様子が記されています。	4
11	長禅(ちょうぜん)寺の境内にある三世堂(さんせどう)は、外観は2層ですが、内部は3層で、上り階段と下り階段があり、堂内では参拝者が交差せずにまわれるようになっています。このような形式をさざえ堂といい、大変貴重な建物です。	2
12	取手市には守谷市、つくばみらい市、龍ヶ崎市、利根町、千葉県柏市、千葉県我孫子市が隣接しています。常総市は取手市の北に位置していますが、隣接はしていません。	4
13	取手市の面積は約70(69.94)平方キロメートルで、県内では44市町村中33番目の広さです。	3
14	取手市は、利根川と小貝川の二つの川に囲まれています。鬼怒川は栃木県日光市から守谷市へ、新利根川、桜川はそれぞれ利根町、桜川市から霞ヶ浦へ流れています。	1
15	取手市民のうたの1番の歌い出だしの歌詞は、「緑あふれる大和川の 川面をわたる 朝の風」です。なお、取手市民のうたの作曲は中田喜直(なかだ よしなお)氏が担当し、「めだかの学校」や、「ちいさい秋みつけた」など数々の曲を手掛けた作曲家です。	3
16	取手宿本陣(染野家)は、茨城県指定有形文化財です。江戸時代、宿場には参勤交代などの大名が泊まる本陣が置かれ、その土地の有力者や豪族の屋敷が充てられました。染野家は代々取手宿の名主を務めた家柄で、1687年(貞享4年)に水戸徳川家から本陣に指定されました。	2
17	「取手はどんな街なのか」を示すフレーズとして2016年(平成28年)10月に「ほどよく絶妙とりで」というブランドメッセージを策定しました。このブランドメッセージは、市民協働によるワークショップを経て策定されたもので、「都心からのほどよい距離、アクセスの良さ」「都市環境と田園風景の絶妙なバランス」「(何もない街と言ってしまいがちだが)本当は生活に便利な環境が揃っている」という、『取手はちょうどいい街・ほどよい街』というイメージを表しています。	4
18	「子どもいきいき自然体験フィールド100選」に取手市では小貝川緑地と農業ふれあい公園が選ばれています。農業ふれあい公園には、市民農園があり、農業体験を通じて作物を育てる楽しみや収穫する喜びを味わい、美しい自然環境の中で交流を深め、豊かな心を育てていただくことを目的に開設されました。	1
19	稲戸井(いなとい)は1889年(明治22年)4月1日に稲村、戸頭(とがしら)村、米ノ井(こめのい)村、野々井(ののい)村の4つの村々から1字ずつ持ち寄ってできた地名です。	3
20	取手市では「壁画によるまちづくり」を推進しており、地元小学生によるデザインのものから、高さ9メートル・幅40メートルにも及ぶ世界的グラフィティアーティストの作品等、市内に17の作品が展示してあります。芸術の中でも壁画はその大きさから、見る人に与えるインパクトも大きなものがあり、壁画を描くことによって落書きや張り紙が減少する等、環境改善や防犯に大きな役割を果たしています。	2
21	取手市では「うちどく」を推進しています。「うちどく」にはルールや決まりはなく、基本は「読んだ本について家族で話す」というものです。本の感想を話し合ったり勧める等、言葉にすることはコミュニケーション能力や読解力、表現力を高めることにもつながります。また、家族のきずなを深めるきっかけともなります。	4
22	「チャレンジデー」とは、毎年5月の最終水曜日(令和元年は5月29日)に世界中で実施される住民総参加型のスポーツイベントです。人口規模がほぼ同じ自治体同士で、当日午前0時から午後9時までの間に15分以上継続して運動をした人数を集計して人口の規模に近い自治体同士で参加率を競います。今回で取手市は2回目の参加で、山形県の鶴岡市と対戦、参加率49.2パーセント対52.6パーセントで残念ながら負けましたが、参加率47パーセント以上に授与される金メダル認定証を獲得しました。また、2018年(平成30年)と比較して参加率が最も上がった自治体に贈られる「参加率アップ賞」を受賞されました。	1
23	取手市では、学校図書館と取手市立図書館の連携事業「ほんくる」を2017年(平成29年)10月25日から取手市内全小中学校で開始しました。学校図書館を市立図書館のサービス窓口として活用するのは茨城県内でも初めての取組みです。	2
24	2019年(平成31年)4月1日現在、取手市の市立小学校数と市立中学校数の合計は20校です。小学校が14校、中学校が6校あります。	3
25	取手市では平成29年度には、1日平均で25,196立方メートル、1人あたりでは1日約260リットル(有取水量264リットル)の水が使われています。取手市では、霞ヶ浦の水を使っていましたが、水の使用量が増えたため30年前から利根川の水を使うようになりました。	4